

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

インクルーシブ教育システム進展のもと、本校が、中河内地域の知的障がい教育の基幹校として、自校の子どもたちへの教育支援と、地域における支援教育力の向上に貢献できるよう、責任と役割を果たし、いっそう府民に信頼される学校づくりをめざす。そのため、次の4点を核とし、取組みを進める。

- (1) 児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズに応える教育活動を展開する学校
- (2) 児童・生徒の自立・自己実現、社会参加に向け、保護者や関係諸機関との連携体制を強化し、実効性ある取組みができる学校
- (3) 中河内地域における支援教育のセンター的機能を発揮できる高い専門性が構築された学校
- (4) 人権尊重のもと、児童・生徒が明るく元気に教育活動を行うことができる安全・安心な学校

2 中期的目標

1 支援学校における教育力の向上、組織としての専門性向上

- (1) 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用をさらに充実させ、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を促進する。
- (2) 障がいのある生徒の特性と到達度を踏まえた指導内容・方法を検証し、授業を改善し、質を向上する。
- (3) 教職員の組織的・継続的な育成のため、校内における研修の目的・内容を精査し、初任者や経験の少ない教職員、及びミドルリーダーの育成を行う。
- (4) 「学校教育自己診断」の実施、及び、学校協議会からの助言・提言を踏まえて、課題の検討、改善を行い、学校経営の透明性と、教育の質と内容を向上させる。

※平成28年度は「保護者向け学校教育自己診断」計28項目中、全項目が肯定的評価、うち8項目が90%以上の肯定的評価であった。平成30年度には、10以上の項目において90%となるようにする。

※平成28年度は「教職員向け学校教育自己診断」の研修にかかる2項目の肯定的評価は、90%、87%、人材育成にかかる項目の肯定的評価は、79%であった。毎年増加をめざし、平成30年度には、3項目全て90%とする。

2 自立・自己実現、社会参加に向けたキャリア教育・進路指導の充実

- (1) 卒業後の自立と社会参加に向けて、小学部、中学部、高等部と連続し、一貫したキャリア教育を促進するため、平成28年度に作成した「キャリア能力に関する評価指標」を活用して教科・領域における年間指導計画を明確にし、指導を行う。
- (2) 高等部教員のキャリア教育・就労支援に関する実践力を強化し、早期からの職場実習や、職域の拡大を図る。
- (3) 保護者へのキャリア教育や進路指導に関する情報提供を充実させ、将来的な進路選択に向けた指導と支援を強化する。

※平成28年度は「保護者向け学校教育自己診断」のキャリア教育の取組みの肯定的評価は77%であったが、毎年増加をめざし、平成30年度には、85%以上とする。

※平成28年度は「教職員向け学校教育自己診断」のキャリア教育の取組みの肯定的評価は91%であったが、平成30年度には、95%以上とする。

3 センター的機能の充実・発揮と、開かれた学校の推進

- (1) 中河内地域におけるセンター的機能を発揮するため、リーディングスタッフ、コーディネーターを中心とした地域支援を充実させ、地域における支援教育力の向上に資する。
- (2) 学校ホームページの内容をさらに充実、進化させ、保護者に教育情報を発信するとともに、開かれた学校づくりを推進する。
- (3) ICT機器の活用に関する教職員研修を充実させ、実践事例の共有化・蓄積化を促進し、教員の専門性向上に資する。

※平成28年度は「教職員向け学校教育自己診断」のセンター的機能の取組みの肯定的評価は86%であったが、平成30年度には、90%以上とする。

※平成28年度は「教職員向け学校教育自己診断」のICT活用に関する肯定的評価は83%であったが、毎年増加をめざし、平成30年度に、90%以上とする。

4 安全・安心な学校づくりの推進

- (1) 一人ひとりの人権を尊重し、いっそう安全・安心な学校づくりを推進する。
- (2) 危機管理マニュアルを活用し、実証型訓練を取り入れ、PTAと連携し、大規模災害を想定した、防災教育を実施する。
- (3) 施設設備の安全確保と、学校の美化を促進する。

※平成28年度は「保護者向け学校教育自己診断」の人権教育についての肯定的評価は76%であった。平成30年には90%以上とする。

※平成28年度は「保護者向け学校教育自己診断」の安全教育の取組みの肯定的評価は91%であったが、平成30年度にも、90%以上とする。

※平成28年度の施設設備の安全に関する肯定的評価は「保護者」71%、「教職員」61%であったが、毎年増加をめざし、平成30年度には、80%以上とする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成29年11月実施分]	学校協議会からの意見
<p>○【生徒、保護者、教職員を対象に実施】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒（高等部）回収率は、70%（前年度比+7%）、保護者83%（前年度比-5%）教職員100%（前年度同）保護者の回収率が下がったのは、未提出者への働きかけが不足した。生徒の回収率が上がったのは事前説明ができたからと考えられる。 <p>○【生徒（高等部）の診断における評価率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12項目中、肯定的評価（70%以上）は、7項目。 ・昨年度の課題であった「授業は理解しやすい」は64%→68%と上昇した。70%には届かなかったが、授業改善を明確に打ち出して取り組んだ結果が出てきている。一層の授業改善を進める。 ・肯定的評価が約90%に達したのは、「学校へ行くのが楽しい」（83%→89%）「遠足、宿泊学習、修学旅行は楽しい」（81%→90%）「運動会、学習発表会は楽しい」（81%→87%）「給食は美味しい」（90%→89%）前例踏襲を良しとせず、教育活動を毎回見直した結果良かった。 ・伸び悩んでいる項目は、「進路についていろいろと教えてもらえますか」（54%→53%）出前授業やキャリア教育が進路学習と捉えられていないかもしれないので質問文の検討が必要。 ・「学校のできごとをよく話しますか」（53%→45%）昨年度も検討事項の質問であった。この質問で何を把握し 	<p>第1回（7/7）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育発達段階表」を活用して、3年間全校で統一した指標で取り組むことについて、指導案に入れ込んで実施をスタートした。昨年度に協議会でも検討したものが完成し具体的な活用になったのは良かった。「できる、できない」ではなく、「できそう」という芽生えに気づく教員の力を高めるヒントになることを期待する。 ・就労移行にぜひ活用してもらいたい。 ・現在離職者なしは大変良い進路指導であった。 ・リーディングスタッフの訪問が1.5倍に増えているとあったが福祉の相談支援も増えているので、在学中から学校と連携していければよいと思っている。 ・高等部は、新教育課程を実施した。TTとの連携が課題であるとのことについて、授業アンケートの保護者の自由

たいのかの再検討が必要。

○【保護者の診断における評価率】

29項目中、全項目が70%以上であった。(前年度28項目)そのうち90%以上の評価は15項目(昨年度8項目)で最低でも75%と非常に高評価であった。

- ・否定的評価が10%以下の項目は、29項目中27項目。
- ・校長室だより(保護者向け、教職員向け)ホームページでの情報発信が学校教育の透明性を高めていると思われる。
- ・否定的項目が一番高かったのは(16%)、「施設や設備は児童生徒にとって安全に整備されている」来年度は大規模改修が実施されるので解決すると思われる。
- ・昨年度80%を目標にした2課題はどちらも80%に達した。「体罰防止、人権尊重」(76%→81%)「キャリア教育」(77%→82%)教職員が意識して取り組んだ結果と思われる。

○【教職員の診断における評価率】

- ・61項目中、肯定的評価(70%以上)57項目
- ・42項目が90%以上、10項目が80%以上。
- ・否定的項目が30%以上は昨年度と同様に「労働安全衛生環境」「勤務実態、労働条件」「施設・設備」であった。特に「授業準備や休憩時間の確保」については否定的評価53%。会議の持ち方の工夫が必要。安全衛生委員会で資料の事前配布や議案の持ち時間について検討した。

・昨年度より否定的評価が上昇したのは、「ICT教育の推進に必要な機器は充実している」(28%→35%)、校長マネージメント予算でタブレットを購入したが生徒数の増加により足りていない。50周年実行委員会で寄贈してもらったので改善すると思われる。

・昨年度から5%下がった項目は「学校の課題を見つけ、改善に向けて取り組みを行っている」(75%→70%)学部内評価に開きがありこのような結果になった。高等部内評価は74%であった。

○【生徒、保護者、教職員の共通項目における評価結果の相違について】

- ・15%以上開きがあった項目は1項目(昨年度2項目)新規追加項目「いじめについて子どもが困っていることがあれば真剣に対応してくれる」(生徒53%、保護者75%、教職員90%)生徒はいじめの事象がないので、低い数値と思われるが、認識が開いている事実を真摯に受け止めて気を付けて対応するようにする。30年度は、いじめ防止委員会の機能を向上させる。

記述内容を教員に伝えているか?

- ・伝えている。学年会で共有して改善を指示している。
- ・生徒の学校教育自己診断「学校に行くのが楽しい」83%から85%にしたい。また、校外での実習について教職員と保護者の評価に差があったので、保護者の評価を80%にするよう取り組むことについて、具体的な案はあるか?
- ・1年生に校外実習がなかったため今年からは入れる。
- ・高等部の不登校生徒が減ってきていることについてはどのような取り組みをしているのかの質問があった。地域でも同様に困っている。不登校生徒が在学中にどのような場所で過ごしているのかテーマがあがっている。ぜひ不登校改善をすすめてもらいたい。

第2回(12/15)

- ・第1回でも話題になった福祉との連携は、高等部2年生で東大阪市就業生活支援センター(委員F所属先)と具体的な取り組みがスタートした。本校と東大阪支援、四条畷校の管轄との連携になった。各校の進路指導主事と校長・准校長とともに検討を重ねた結果である。良かった。
- ・50周年記念式典のビデオを視聴。良い式典であった。(参加した委員C)事前学習のICTを活用した内容がわかりやすい。

- ・高等部は山本高校との交流が34年間続いていることについて。素晴らしいことである。ぜひ今後も続けたい。
- ・教科書選定の流れについて詳しく教頭が説明したことについてよくわかった。

第3回(2/20)

- ・保護者、教職員向け学校教育自己診断結果は、全体を通しておおむね肯定的回答の基準に達することができたことは良いことである。
- ・生徒向け学校教育自己診断結果の数値が上昇しているので、学校生活を楽しめていることが読み取れる。
- ・生徒向け「進路」についての数値が低いので、質問文の変更が必要。次年度に向けて文言を工夫・検討する。
- ・高等部卒業後の進路先は様々あるので保護者にも早い段階で情報提供するほうが良い。
- ・個別の指導計画について適切な目標設定である。1学期ごとに評価を行っているが、もう少しスモールステップで期間を短くして検証してもらいたい。
- ・高等学校での頭髪指導の件に関わって、高等部生徒指導内規について検討いただいた。触法行為は別室指導でなく、自宅謹慎が妥当ではないかという意見があったが、生徒指導の一環と考えているので、学校で指導する

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 支援学校における教育力の向上、組織としての専門性向上	<p>(1)「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用の充実、一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援の促進 ①個に応じた支援の充実 ②教育課程の改編・実施 ③授業アンケートの活用</p> <p>(2)生徒一人ひとりの障がい特性に応じた指導内容・方法の検証、授業改善及び質の向上</p> <p>(3)人材育成と教員の授業力及び専門性の向上</p> <p>(4)「学校教育自己診断」及び、学校協議会からの助言・提言を踏まえた学校経営の透明性と、教育の質と内容を向上</p>	<p>(1)①「合理的配慮」に基づく適切な支援を行うため、昨年度保護者に実施した「合理的配慮に関するアンケート」を参考に、生徒一人ひとりの障がい特性、教育的ニーズに応じた学習内容・指導・支援の方針を明確にした授業を推進。 ②新教育課程を実施し、教科会議を充実させ、所属学年のみならず学部全体の教科指導に責任を持つ。 ③授業アンケートの実施（年3回）、結果のフィードバックにより授業力の向上を図る。また、保護者の意見を授業改善に活かす。</p> <p>(2)①生徒の実態・課題に合った授業を実施するためにTTとの効果的な分担を指導案に含み、授業のユニバーサルデザインをすすめる。 ②教材・教具の開発を行い、教材交流を促進する。</p> <p>(3)①10年経験者が初任者対象の公開授業実施。 ②初任者の研究授業に5年目までの教員をアドバイザーとして配置し、初任者と経験の少ない教員の授業力をトータルで向上させる。 ③校内研修を計画的に実施し、専門性向上に資す。</p> <p>(4)①「学校教育自己診断委員会」による実施、集計、分析、改善の取り組みを実行する。 ②学校協議会(3回)の助言・提言によりできるところから学校課題の改善を行う。「信頼の回復」から「信頼の醸成」へ学校づくりをさらに推進する。</p>	<p>【 】・平成28年度結果 (1)①教科・領域の指導における個別支援を具体化。生徒一人ひとりの障がい特性に応じた指導内容・方法を検討するために担当者会議を開催。・保護者向け自己診断「教育支援計画に基づいた適切な支援」【肯定的評価90%】→90%以上 ②教科ごとに全学年のシラバスを作成し点検する。PDCAサイクルで検証。・生徒用自己診断「授業は理解しやすい」【肯定的評価は64%】→70%以上 ③自由記述内容の分析を実施する。 (2)①管理職の授業観察に、「授業の視覚化・わかりやすさ」「TTとの分担」の観点を加えて授業観察を実施。 ②校内LANにおける「教材バンク」に一人ひとつ以上の教材を保存。活用の促進。・保護者向け自己診断「教材・教具の工夫・配慮」【87%】→87%以上 (3)①10年経験者の公開授業実施。振り返りシートを提出する。 ②初任者の研究授業の指導案を5年目までの教員にも指導させ、管理職が確認する。 ③全職員対象の校内研修を20回以上実施。初任者はさらに8回実施する。 (4)①平成29年度版自己診断を10月中旬に完成させ、11月に実施、1月集計・分析2月改善の方策を検討する。 ②生徒用自己診断項目、「学校へ行くのが楽しい」【肯定的評価83%】→85%以上の評価をめざす。</p>	<p>(1)①個別の指導計画の目標設定内容の修正が30.7%から15.7%に減った・保護者向け自己診断「教育支援計画に基づいた適切な支援」肯定的評価90%→95%(◎) ②教科会を充実させ、学部として取り組んだ。生徒用自己診断「授業は理解しやすい」肯定的評価は64%→70%を目標にしたが68%。授業改善を明確に打ち出し効果はあったが継続課題(○) ③保護者の意見を全員にメール配信して、学年会で共有した。保護者アンケートの90%が肯定的な意見であった。(○)</p> <p>(2)①授業観察の様子から視覚的支援の活用が進んだ。TTとの連携では、生徒に付き添うだけでなく、授業実施者としての役割を認識すること、事前の打ち合わせを大切にすることを部会で確認。引き続き取り組む(○) ②ホームページにアップした。保護者向け自己診断「教材・教具」87%以上目標→91%(◎) (3)①②好評であった。初任者の育成に寄与することができた。(○) ③予定に追加して、准校長による中央研修の伝達講習を入れた。新学習指導要領について周知できた管理職が講師になる研修の効果を感じた(◎)</p> <p>(4)①保護者教職員の多くの項目が90%以上の肯定的評価で昨年度より一層向上した。(◎) ②生徒用自己診断項目、「学校へ行くのが楽しい」肯定的評価85%を目標にした結果89%(◎)</p>
2 キャリア教育・進路指導の充実	<p>(1)知的障がい支援学校におけるキャリア教育の推進</p> <p>(2)教職員のキャリア教育・進路指導のスキルアップ</p> <p>(3)高等部における就労支援の強化と職場実習、作業所実習の充実</p> <p>(4)保護者へのキャリア教育の情報提供の充実</p>	<p>(1)①平成28年度に作成した「キャリア能力に関する評価測定のための指標(案)」をもとに、実態把握をして推進する。 ②1年生フロンティアコースで校外実習を実施する</p> <p>(2)キャリア教育、進路指導の理解と実践を促す研修、ワークショップを行う。</p> <p>(3)①定期的な職場実習だけでなく、希望に応じて個別に実習機会を設定し、就労支援を行う。 ②企業、事業所、障がい者就業・支援センター等と連携し、早期から卒業後の社会的自立を目標にする。</p> <p>(4)「進路だより」による卒業後の情報伝達と、保護者向け研修会、見学会実施。</p>	<p>(1)①指標を完成させ、28年度実施した保護者向けアンケートのライフスキル、教員向け合理的配慮アンケートを活用する。 ②自己診断「実習の取り組み」【肯定的78%】→80% (2)外部講師の年3回の講演及び学部内ワークショップ年5回開催。 (3)①複数の職種を体験させてマッチングの機会を充実する。 ②生徒向け進路学習を充実させる。 ・生徒用自己診断「進路について教えてもらえる」【肯定的評価54%】→70% (4)「進路だより」年10回以上発行、保護者向け研修会、見学会10回以上実施・保護者向け自己診断「実習の取り組み」肯定的評価【78%】→80%</p>	<p>(1)①評価育成目標設定面談で全員に確認した。指導案に入れ込んで実施できた(○) ②自己診断「実習の取り組み」肯定的78%→80%を目標にした結果83%(◎)</p> <p>(2)外部講師を招いた講演、研修の実施6回、生徒向けワークショップ4回(◎)</p> <p>(3)①マッチングがうまくいかなかったケースがあった。30年度は進路部に加え学年でも検討する会議を持つ(△)②東大阪市就業生活支援センターと新規事業が立ち上がった。(○) ・生徒用自己診断「進路について」肯定的評価54%→53%。質問文見直し(△) (4)・保護者向け自己診断「実習の取り組み」肯定的評価78%→80%目標にした結果83%(◎)</p>
3 センター機能の充実と関係機関との連携の推進	<p>(1)中河内地域の推進校としてのセンター的機能発揮。 ①地域学校園支援教育のサポート。 ②支援教育理解講座やケース会議の開催 ③教育情報の提供</p> <p>(2)学校ホームページのさらなる充実と、開かれた学校</p> <p>(3)ICT機器の積極的活用</p>	<p>(1)①・リーディングスタッフ、コーディネーターを中心とした巡回指導、ケース会議でのアドバイスをさらに充実させる。メール相談・電話相談等実施。 ・発達障がいのある生徒支援のため、旧5地区を含む高校との連携支援を行う。 ②外部講師の他、本校教員による講座を行い、次世代コーディネーターを育成する。 ③教材・教具のライブラリー化</p> <p>(2)ホームページへの校長室だより(保護者向け、教職員向け)、学校だより、ブログに加えて地域支援室のコラムを作成して情報発信をさらに充実させる。</p> <p>(3)ICT機器を積極的に活用させる。そのために外部研修に参加させて伝達講習を実施する。 ①メールを使って情報交換、Webケーススタディー、等を行い、積極的に活用する習慣をつける</p>	<p>(1)①教員向け自己診断「センター校としての体制」【肯定的評価86%】→86%以上 ・旧5地区を含む高校との連携支援を10回以上行う。 ②夏の公開研修において、本校教員による講座を複数設定し、地域の要望に対応する。コーディネーター1.5倍増。 ③夏季休業中の教材展示・公開授業の開催。ホームページでの公開。 (2)8月をめぐりにリニューアル。ホームページアクセス数20%増 (3)・自己診断「ICT機器の活用」【肯定的評価83%】→85%以上、</p>	<p>(1)①教員向け自己診断「センター校としての体制」肯定的評価86%→86%以上目標にした結果87%(○) ・高校との連携支援は4回。支援要請は全て実施した(△) ②研修に参加させることができなかった。コーディネーター養成1.3倍(△) ③ホームページにアップ(○)</p> <p>(2)ホームページをリニューアルした。アクセス件数は80%以上大幅に増加した。17504→32461件 85%以上(◎)</p> <p>(3)・自己診断「ICT機器の活用」肯定的評価83%→85%以上目標にした結果88%(◎)</p>
4 防災・安全対策の推進	<p>【(1)人権を尊重した学校づくり</p> <p>(2)防災マニュアルの活用と防災教育の実施 ①実証型避難訓練導入 ②個人備蓄の更新 ③保護者、教職員対象の防災研修の実施</p> <p>(3)施設設備の安全確保と、学校の美化の促進 ①施設・設備の安全点検 ②教職員、生徒清掃による美化</p>	<p>(1)①人権研修を充実させ、体罰防止、ハラスメント防止等テーマ別研修を深める。 ②人権週間の(12月)の取り組み実施。</p> <p>(2)①防災マニュアルの検証。 ②PTA等との協力体制により、個人備蓄を更新する。 ③PTAとの共催により、防災研修を実施する。</p> <p>(3)①毎月全教職員で安全点検 ②月1回の教職員大掃除日、生徒の毎日の清掃により、学校の環境整備と美化を推進する。</p>	<p>(1)①参加体験型の人権研修の充実(年3回)・チェックリストの活用。・学部集会、生徒会活動等推進。・保護者向け自己診断「子どもの人権への配慮」【肯定的評価76%】→80%以上 (2)①実証型訓練の導入。 ②個人備蓄の内容と預かり場所を更新する。 ③保護者向け自己診断「防災研修」【肯定的評価83%】→83%以上へ</p> <p>(3)①チェックリストを使用し徹底。 ②教員自己診断「校内の清掃」【肯定的評価75%】→75%以上をめざす。</p>	<p>(1)①・保護者向け自己診断「子どもの人権への配慮」肯定的評価76%→80%以上目標にした結果81%(○)</p> <p>(2)①八尾市危機管理室と連携できた。(○) ②目的が理解され更新できた。(○) ③保護者用自己診断結果83%(○)</p> <p>(3)①毎月確実に実施できた。また速やかに修繕箇所の対応ができた。(○) ②教員自己診断「校内の清掃」肯定的評価75%→75%以上を目標にした結果87%(◎)。</p>